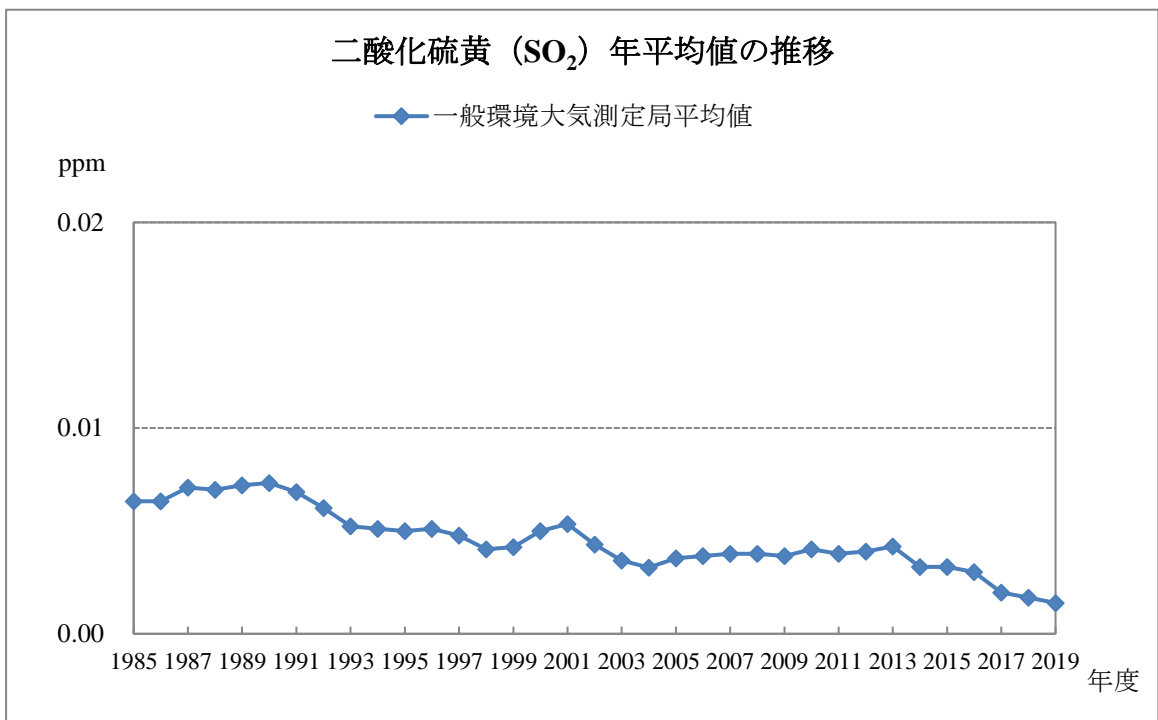
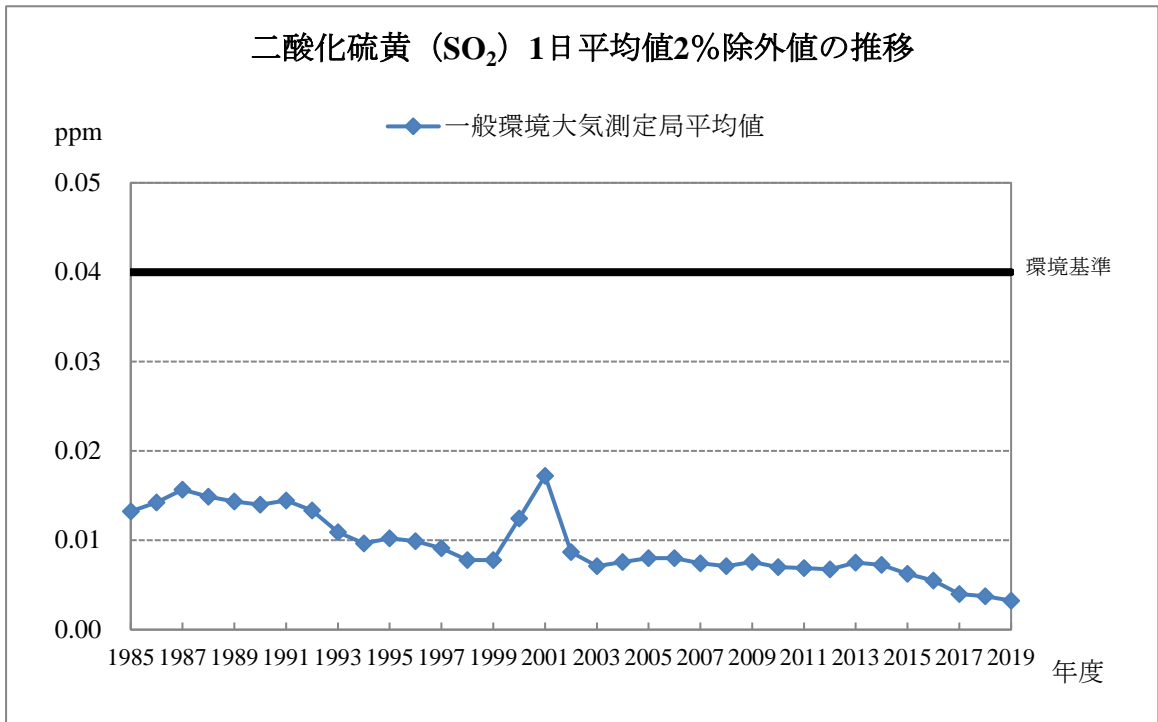


(2) 近年の状況と推移

1 二酸化硫黄 (SO<sub>2</sub>)

二酸化硫黄については、2000～2002年度に三宅島火山の噴火による影響があるが、継続して全局で環境基準を達成している。(長期的評価)

年平均値については、2015年度から、下降傾向にある。

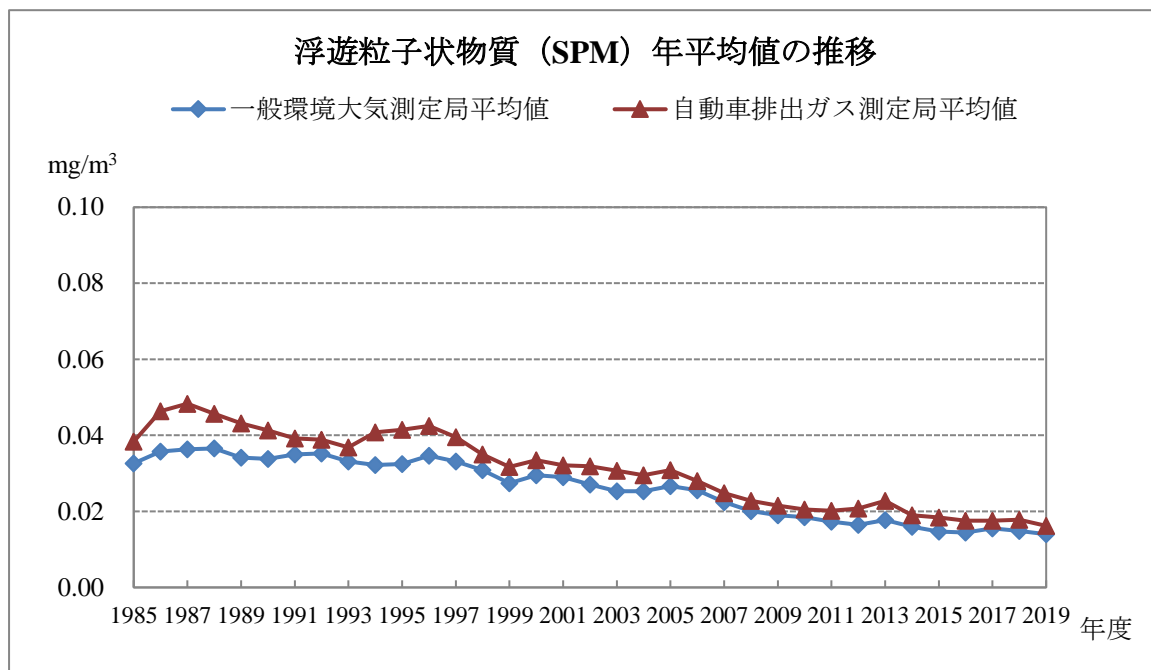
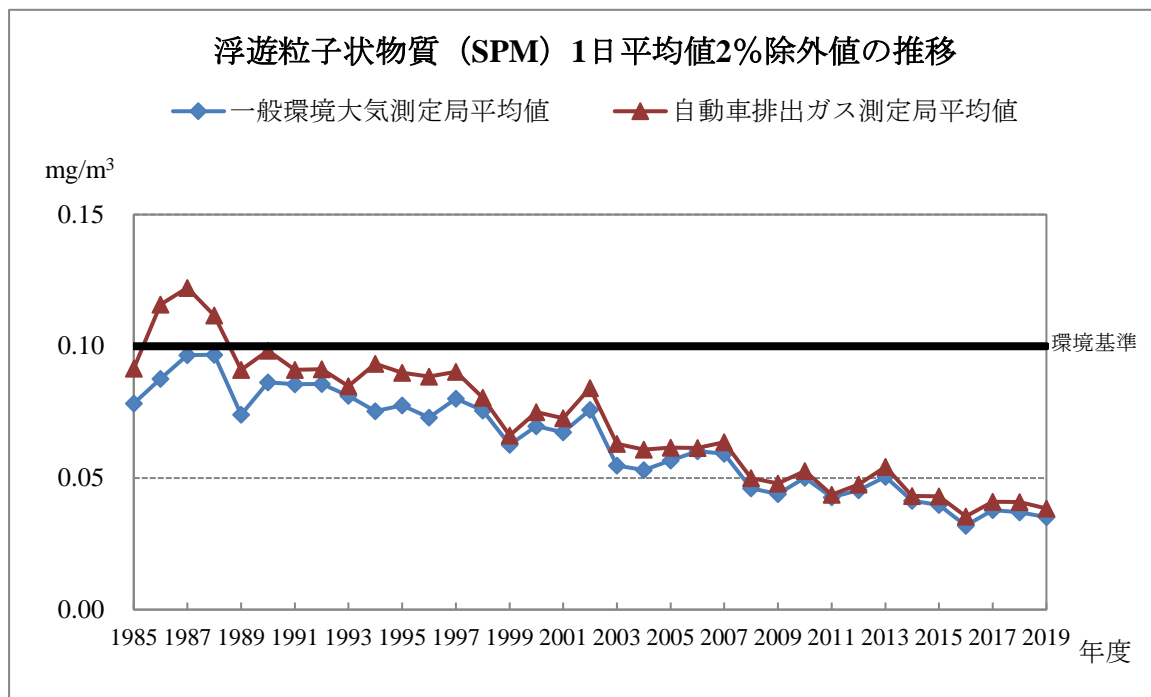


## 2 浮遊粒子状物質 (SPM)

浮遊粒子状物質については、2003年度以降、2011年度を除いては全局で環境基準を達成している。(長期的評価)

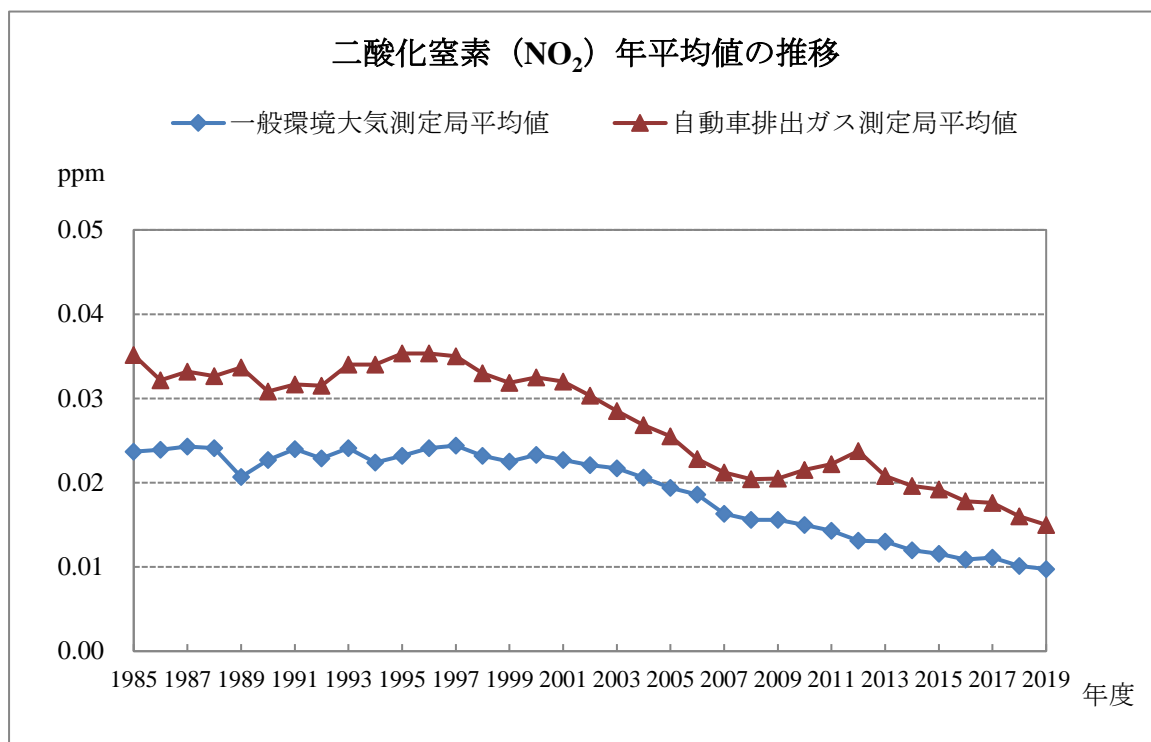
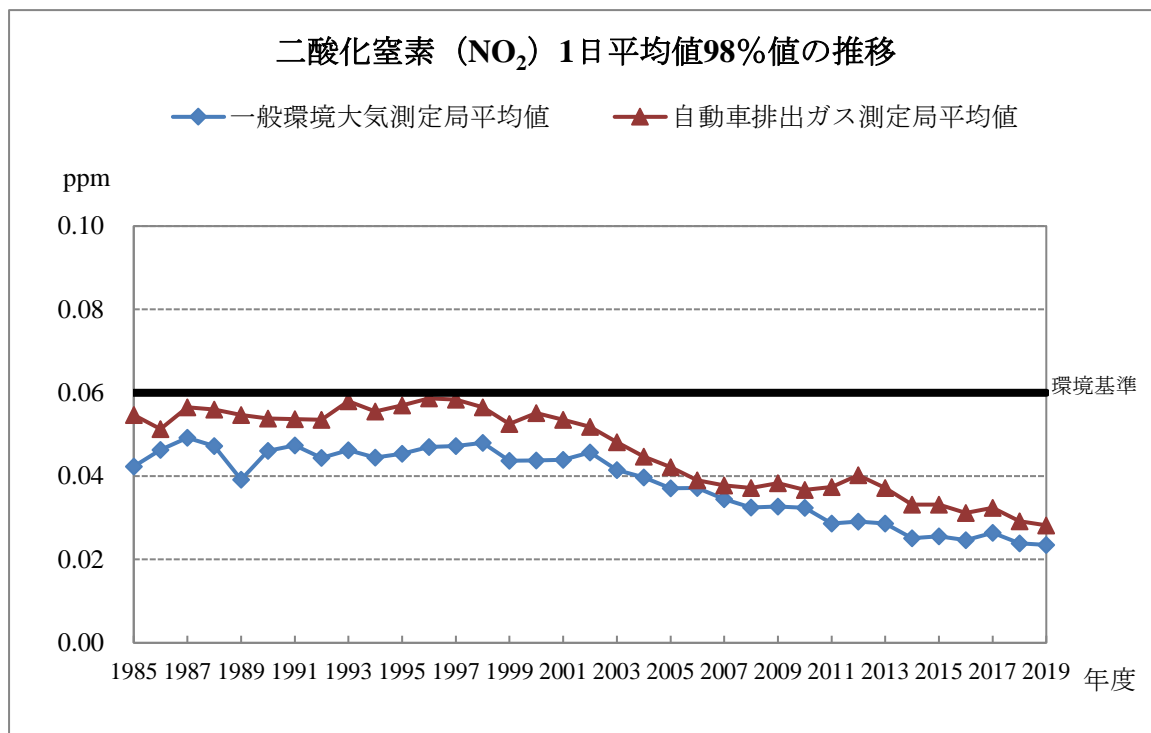
2011年度は黄砂の影響により、環境基準を超える日が2日以上連続したため環境基準が非達成となった。

年平均値については、2013年度はゆるやかな上昇傾向を示したが、2014年度からは下降傾向に転じ、この3年はほぼ横ばい傾向にある。



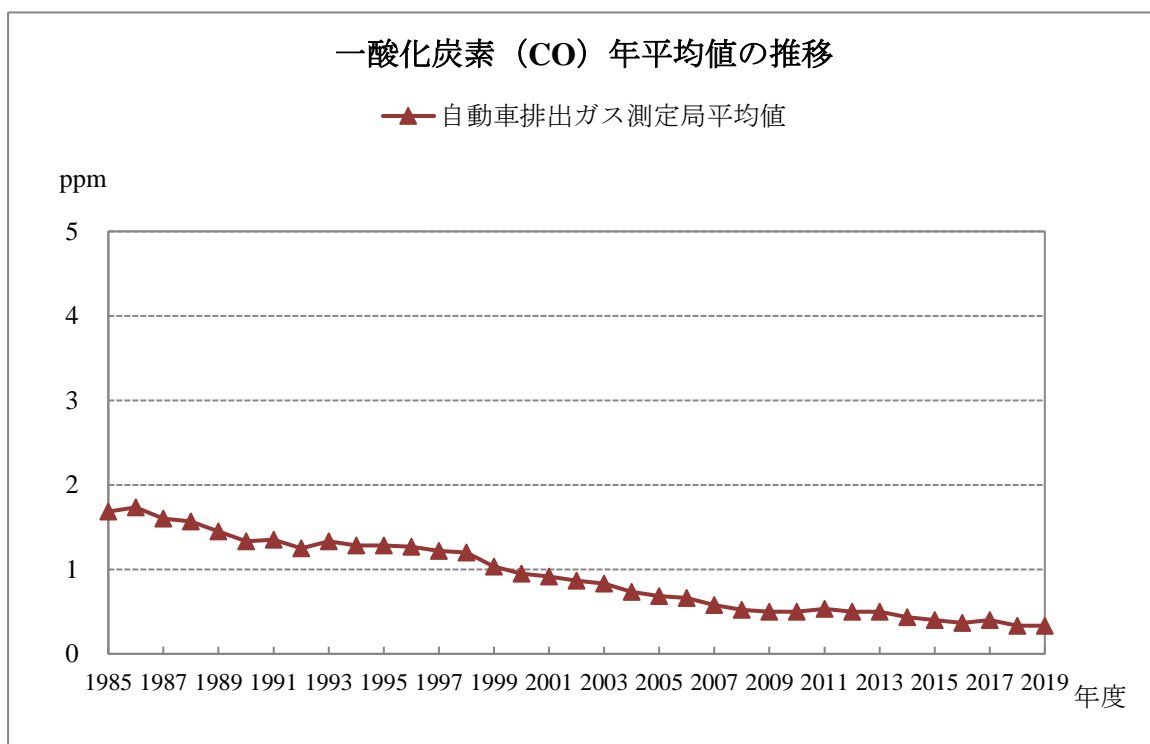
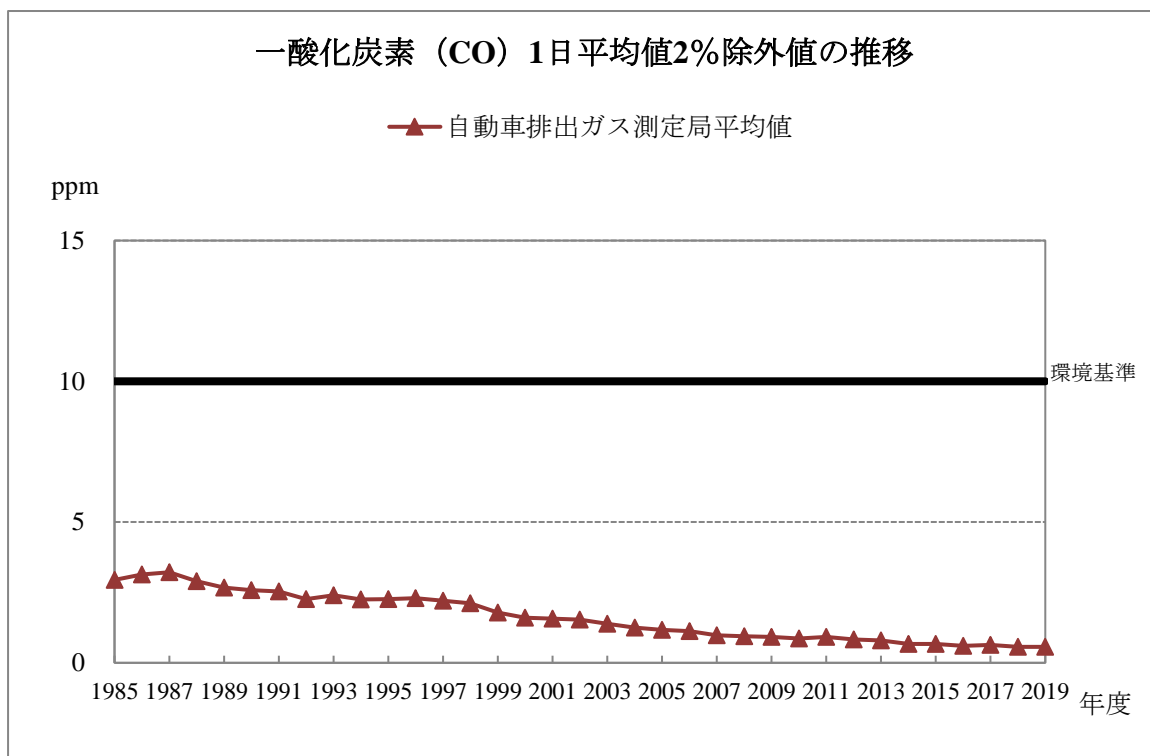
### 3 二酸化窒素 (NO<sub>2</sub>)

二酸化窒素については、2003年度以降は、全局で環境基準を達成している。(長期的評価)  
年平均値については、一般環境大気測定局はゆるやかな減少傾向にあるが、自動車排出ガス測定局はここ数年やや増加傾向を示していたが、2013年度以降は減少に転じた。



#### 4 一酸化炭素 (CO)

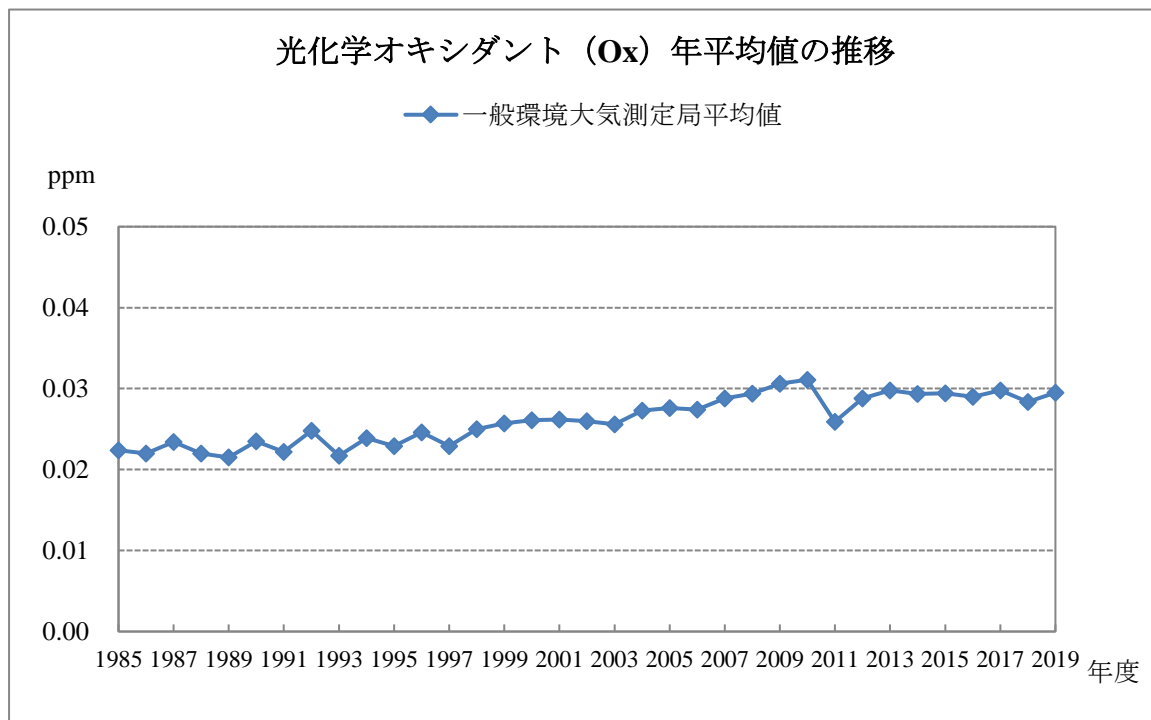
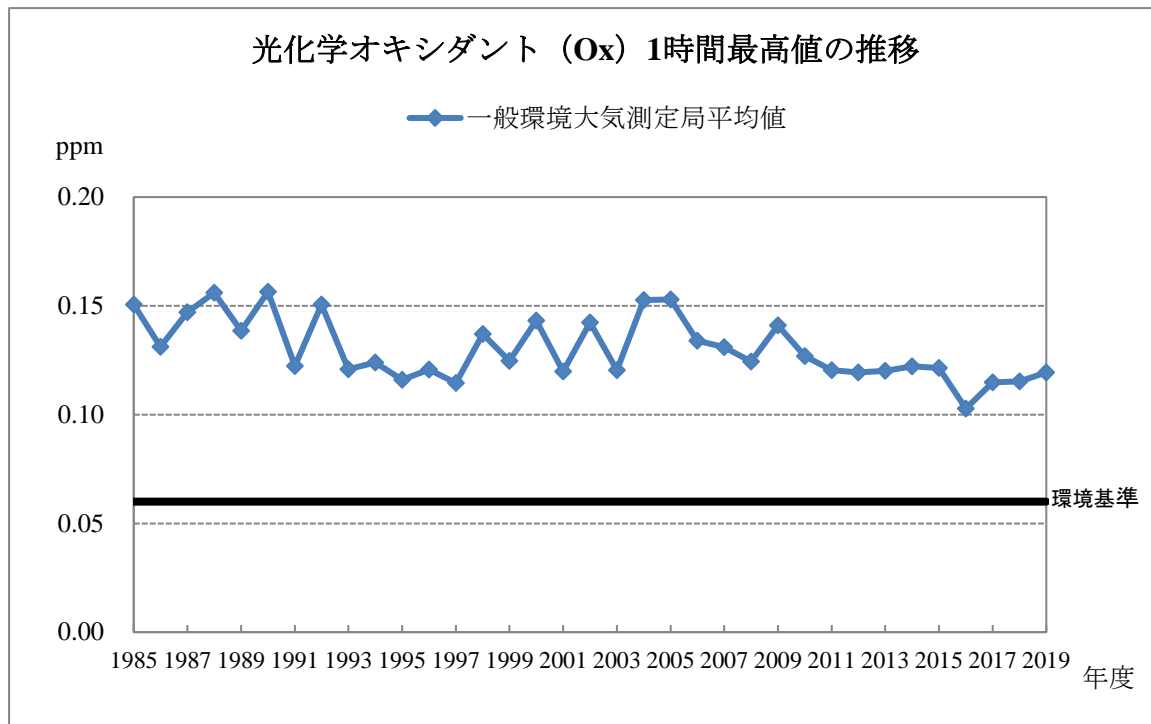
一酸化炭素については、継続して全局で環境基準を達成しており、基準値よりかなり低い値で推移している。(長期的評価)



## 5 光化学オキシダント (Ox)

光化学オキシダントについては、近年全国的にその濃度が上昇しており、本市においても増加傾向を示している。

環境基準については、全局で非達成となっている。



## 6 微小粒子状物質 (PM2.5)

微小粒子状物質は、2011年10月から6箇所の測定局で測定を開始した。環境基準の評価については有効測定日数(年間250日以上)を満たした測定局を対象とし、2012年度は6局、2013年度以降は11局全局で行っている。

ただし、2019年度の有効測定局は9局となっている。

2019年度の年平均値について、有効測定局9局中全局で環境基準の $15\mu\text{g}/\text{m}^3$ 以下を達成した。(長期的評価)

また、2019年度の1日平均値98%値について、有効測定局9局中全局で環境基準の $35\mu\text{g}/\text{m}^3$ 以下を達成した。(短期的評価)

よって、2019年度の環境基準達成状況については、有効測定局9局中全局で達成した。

